

～子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）の取組～



「ユニセフ第2回東アジア・太平洋地域子どもにやさしいまち会議」参加報告

会場：中国山東省済南市
(山東省科学技術博物館)



■日本代表として富谷市が参加

9月24日～26日、ユニセフ東アジア・太平洋地域事務所及びユニセフ中国事務所が主催し、「子どもにやさしい都市で育つ」と題して、中国山東省済南市で開催された「ユニセフ第2回東アジア・太平洋地域子どもにやさしいまち会議」へ出席しました。東アジア・太平洋地域とヨーロッパ20カ国の自治体等代表者が約300名参加する中、日本代表として招待され、「子どもの参加」がテーマのパネルディスカッションに登壇し、4都市の関係者と意見交換を行いました。

■パネルディスカッション登壇者

- ①中国^{かたく}済南市
- ②ベトナムダナン市
- ③フィンランドバンター市
- ④ドイツポツダム市
- ⑤富谷市（若生市長）



パネルディスカッションする若生市長



ユニセフ東アジア太平洋地域事務所代表：ジュン クヌギ氏

■パネルディスカッション発言内容（一部抜粋）

Q. 子どもの参加を促進するために直面した課題とそれらにどのように対応しているか。

市長. 日頃より、市職員に対して「声なき声に耳を傾ける」ことを大切に日々の業務を遂行するように伝えているが、子どもの意見の吸い上げ方に難しさがあると捉えている。本市では、まちづくりに対して小学生の意見を聴く「わくわく子どもミーティング」や市内全中学校の生徒会が集まる「生徒会サミット」を毎年開催している。事前にクラスメイト達の意見を集約し、会議に参加することにより、子どもたち同士の声に耳を傾け、自分の権利が大切にされることで友達の権利にも気づき行動していくこと、このような意識を持つ子ども達に成長している姿を見て、「子どもにやさしいまち」は「みんなにやさしいまち」になりつつあることを嬉しく感じている。

Q. 子どもの参加に取り組みはじめたばかりの市に対してどのような提案をされますか。

市長. 全庁挙げて CFCI 実践の取組を推進したことで、職員の意識変化が見られ、その成果として各課において子どもの意見を取り入れた施策が展開されている。自己点検のチェックリストは、市役所全部署で取り組み、自己評価を行い、子ども版としても公開し、子ども達と共有している。本市では、ユニセフが推進する「95 cmの目線から見えるまち」を大切にまちづくりに取り組んでおり、子どもの権利を認められた環境で育った子どもは、相手の権利も大切に、思いやりのある大人に成長すると信じている。「子どもにやさしいまち」は「すべての人にやさしいまち」になると考え、組織内全ての人が意識することで、それがあたりまえの風土となる体制づくりを提案する。

Growing Up in Child Friendly Cities

UNICEF 2nd Regional Meeting
in East Asia and Pacific

23 - 26 September 2024
Jinan, China

Organized by:
UNICEF East Asia and Pacific
Regional Office (EAPRO)
UNICEF China

目的

地域会議「子どもに優しい都市で育つ」の最終的な目標は、すべての子どもにとって安全で包括的、持続可能で回復力のある都市環境の実現を促進することです。

具体的には、この会議は以下の目的の達成に大きく貢献します。

1. ベストプラクティスの共有 : ベストプラクティスの共有、交換を促進し、東アジア・太平洋地域の都市間で子どもに優しい革新的な解決策を検討し、地域レベルで子どもの福祉を促進するための進捗状況を評価します。
2. 協力の強化 : 都市、政府、開発パートナー、市民社会、学界、民間部門間のより強力なパートナーシップを強化し、育成します。
3. 地域における子どもに優しい都市の推進と拡大 : 子どもに優しい取り組み、政府プログラム、パイロットプロジェクトを拡大し、持続的に再現するための機会を特定し、適切な方法を考案する。

